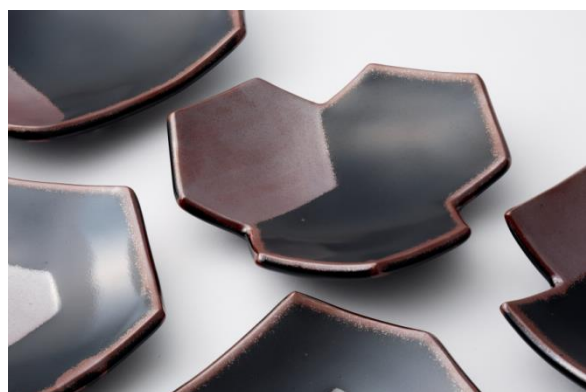


第 42 回全国伝統的工芸品コンクール

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2017

平成 29 年度 全国伝統的工芸品公募展

報 告 書



主 催： 一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

後 援： 経済産業省・中小企業庁・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会

■ 開催概要

名 称	平成 29 年度全国伝統的工芸品公募展 第 42 回全国伝統的工芸品コンクール／JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2017
開催主旨	長い間受け継がれた確かな伝統的技術・技法に、現代生活の様式に合致し、新しいアイデアや表現を取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、魅力あふれる製品の開拓を行う目的で行います。現代生活で使われるための需要を喚起し、国内だけではなく世界のマーケットにも通じる製品開拓を行います。
応募期間	平成 29 年 10 月 2 日（月）～ 11 月 20 日（月）
審査会	平成 29 年 12 月 14 日（木） 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会／東京都港区
審査結果発表	平成 29 年 12 月 14 日（木）
応募総数	94 工芸品／164 点／145 応募者



審査員

増 村 紀一郎	東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者
宇 野 万貴子	高島屋 MD本部 呉服ディビジョン ディビジョン長
加 藤 庄 平	有限会社丸窯製陶所 代表取締役
田 中 敦 子	工芸ライター
棚 町 敦 子	「美しいキモノ」エディトリアル スーパーバイザー
栗 田 豊 滋	経済産業省 製造産業局 伝統的工芸品産業室 室長
林 克 美	日本伝統工芸士会 副会長
日 野 明 子	クラフトバイヤー
御手洗 照 子	T-POT 代表取締役
諸 山 正 則	東京国立近代美術館 特任研究員
吉 田 龍太郎	株式会社プレステージ ジャパン 代表取締役
安 藤 重 良	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事

九谷焼 「黄磁釉 桜型鉢」 山本篤（石川県）



重ね合わせたときの美しさと、料理を引き立たせる造形が、思わず人をもてなしたくなる作品である。

黄磁の優しさにマッチした柔らかなフォルムは、使いやすく、現代生活の中で存在感を有している。

経済産業大臣賞

笠間焼 「笠間色 和菓子皿」 佐藤 剛 （茨城県）



笠間焼らしさを残しながらも独自のモダンな形状と、柿赤釉と黒釉の絵付けの意匠が斬新な印象を残した作品である。技術力の高さに加え、使ってみたくなるデザイン性の高さが笠間焼の良い手本となった。

経済産業省製造産業局長賞

越前打刃物 「SK06 YOSEGI」 増谷浩司 （福井県）



ステーキナイフの美しい刃に寄木細工の柄をつけることで、日本の工芸品に新たな展開がみられた。

確かな技術に、使ってみたいと思わせる品格のあるデザイン性を有した作品である。

入 賞

中小企業庁長官賞

江戸切子 「結 晶」 青山弥生 (東京)

静かな独創性を持ち、美しくモダンな作品である。消しガラスをうまくデザインに活かしつつも確かな技術が反映され、ギフトにもよい。



全国商工会連合会会長賞

丸谷焼 「九谷色絵真麗線文組鉢」 宮本雅夫 (石川)

シンプルで現代的な感覚でありながら、五彩という丸谷ならではのDNAを宿し、現代的感覚をもち、デザイン性、使い勝手の良い作品である。



一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

二風谷アットウシ 「upas (ウパシ) ~雪~」
貝澤雪子 (北海道)

野趣あふれ、使いにくくなりがちな素材を北海道らしい色使いでモダンに力強く表現されている。夏に締めてみたいと思う作品である。



若手奨励賞

備前焼 一人用コーヒードリッパー「nagom」
安藤騎虎 (岡山)

お茶のイメージのある備前焼だが、現代的なデザインで現代の“茶事”へと昇華させた。



日本商工会議所会頭賞

香川漆器「ホーロク型 四種」 佐々木敏晴 (香川)

木地に下地を厚く塗らず、黒漆を上塗した優れた仕事が施されている。価格も手ごろで、デザイン性にも優れた作品である。



全国中小企業団体中央会賞・バイヤー賞

木曽漆器 「彩 鉢」 西野孝章 (長野)

シンプルであるが、色鮮やかな色漆が墨流しのような新鮮な美を奏で、確かな技術を感じる。柔らかく、温かみを表現した塗りたての技法は、現代の人が求めている要素をおさえている。



日本伝統工芸士会会長賞

甲州印伝「URUSHINASHIKA (ウルシナカ) Wallet & 名刺入れ」
山本裕輔 (山梨)

食害が問題となっている鹿を利用することで、社会的な問題をプラスに転じ、商品に昇華させた。また鹿の傷がわかりやすく扱いづらい薄い色をあえて使用した優れた作品である。



特 別 賞

十日町明石ちぢみ「変わり七宝つなぎ」 吉澤武彦 (新潟)

よろけた織り味で濃い地に透け感をもたせ、現代的なデザインで価格もこなれている。色合い、肌触りの良さに惹かれる、夏にぴったりの着物である。



入 選（78 点）

織 物 （19 点）		
埼玉	秩父太織	MagneticPole
東京	多摩の紙布織り	池田明美
東京	蓮糸織	斉藤佳代子
新潟	本塩沢	(株)やまだ織 山田千晴
兵庫	赤穂緞通	根来節子
岡山	烏城紬	須本雅子
福岡	博多織	相澤久美子
福岡	博多織	大淵和憲
福岡	博多織	菅 晶子
福岡	博多織	古賀陽子
佐賀	鍋島緞通	吉島ひろ子
沖縄	久米島紬	糸数京美
沖縄	久米島紬	高坂エミ子
鹿児島	本場大島紬	高山 CHOYA ソーイング(株)
鹿児島	本場大島紬	たけがわ織物 竹川忠克
鹿児島	本場大島紬	たけがわ織物 竹川忠克
鹿児島	本場大島紬	南 修郎
沖縄	久米島紬	桃原禎子
山形	草木染諸紙布	工房千倉 木島由美子

染 色 品 （6 点）		
東京	東京手描友禅	有限会社マチダ
東京	東京染小紋	株式会社二葉
東京	東京染小紋	株式会社二葉
愛知	有松・鳴海絞	山口善照
愛知	名古屋友禅	山田るり子
愛知	名古屋友禅	渡辺桂子

その他繊維製品 （1 点）		
東京	江戸刺繍	辻口良保

陶 磁 器 （10 点）		
東京	磁器	陣川 愛
石川	九谷焼	平野由佳
石川	九谷焼	平野由佳
愛知	瀬戸染付焼	加藤美穂子
愛知	赤津焼	宮地生成
三重	桑名萬古焼	森 工人
京都	京焼・清水焼	京谷浩臣
島根	石見焼	螺山勝實
山口	萩焼	樋口大桂
長崎	三川内焼	中里 一郎

漆 器 （15 点）		
青森	津軽塗	白川明美
岩手	浄法寺塗	(株)浄法寺漆産業
神奈川	鎌倉彫	青山常昭
神奈川	鎌倉彫	三橋鎌幽
新潟	新潟漆器	山本祥二郎

長野	木曽漆器	那須野茂
長野	農民美術	中道工房 春原利二
石川	輪島塗	吉田宏之
石川	山中漆器	久保出章二
石川	山中漆器	針谷祐之
石川	山中漆器	針谷祥吾
京都	京漆器	遠藤公譬
山口	大内塗	富田潤二
香川	香川漆器	中田大輔
香川	香川漆器	渡辺光朗

木 工 品 （3 点）		
愛知	組子細工	山田典幸
兵庫	江戸指物	森田直樹
広島	宮島細工	沖田 要

竹 工 品 （1 点）		
大分	別府竹細工	佐藤美樹子

金 工 品 （6 点）		
岩手	南部鉄器	大村敏宏
岩手	南部鉄器	佐々木奈美
岩手	南部鉄器	佐々木奈美
東京	東京彫金	宮下俊之
東京	東京彫金	宮下俊之
大阪	堺打刃物	山本真一郎

仏壇・仏具 （1 点）		
新潟	新潟・白根仏壇	羽賀良介

和 紙 （2 点）		
千葉	加飾紙	(有)湯島アート一色清
福井	越前和紙	柳瀬晴夫

文 具 （2 点）		
兵庫	播州そろばん	高山辰則
広島	熊野筆	實森将城

人 形 （2 点）		
石川	越谷ひな人形	金澤人形の堀川

諸 工 芸 （10 点）		
群馬	高崎だるま	今井裕久
埼玉	将棋盤	吉田寅義
東京	如雨露	Xavier Roura
東京	如雨露	根岸洋一
東京	江戸切子	小林昂平
東京	江戸切子	高野秀徳
愛知	名古屋提灯	伏谷健一
静岡	駿河塗下駄	花森知子
京都	京扇子	豪阿弥
京都	京扇子	米原康人

材料・用具 （1 点）		
富山	庄川挽物木地	横山勝次

平成 29 年 12 月 14 日、平成 29 年度全国伝統的工芸品公募展の審査会が一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会「伝統工芸 青山スクエア」において開催されました。

本年の応募総数は 1 6 5 点、9 4 工芸品、1 4 5 人となり、昨年は 1 4 7 点でしたのでより多くの作品が集まりました。

審査委員は専門部門とバイヤー部門で構成され、初めに専門部門の委員による「予備審査」が行なわれました。伝統がない作品（例えばコンピュータで作ったもの）、手作りでない作品、他のコンクールですでに発表された作品、リサイクルの作品、技術が稚拙な作品など本コンクールにふさわしくない作品が選出され、1 点が審査外候補となり、審議のうえ、決定しました。

つぎにバイヤー部門の審査委員が参加した「審査委員会」により審査が行われました。作業に先立ち以下の審査基準に留意して始まりました。

- ①製造技術が範となる水準であること。
- ②用途を備え、用途に応じた機能、大きさ、重さ、意匠、耐久性を有すること（つまりは工芸品であること）。
- ③販売可能性が疑われる価格設定でないこと（つまり非売品は選考しない）。
- ④作り手独自のアイディアを生かした意匠や技術（美的要素）が見られるもの。
- ⑤現代の暮らしの中で存在感を有するもの。

審査方法は、全応募作品の中から入選工芸品を選出する作業となり、8 9 点の作品が入選となりました。

引き続いて入選工芸品の中から受賞作品を選出する作業に入りました。受賞候補となる作品が 25 点、選出されました。

これらの作品情報を次にあげる項目に分類して投票を進めました。工芸品名、作品名、従事年数、若手かどうか、伝統的工芸品の指定品か否か、さらに技術、デザイン、機能、市場性、総合点などを考慮したうえで受賞作品が決定しました。

受賞作品 12 点の中から＜内閣総理大臣賞＞には石川県の山本篤氏、九谷焼の「黄磁釉 桜型鉢」選ばれました。九谷焼の伝統的な釉薬である黄色に焼きあがった組鉢であります。組み重ねると八重桜として収納でき、小鉢は取鉢（取皿）となる使い勝手の良さも連想させる器であります。

次に＜経済産業大臣賞＞には茨城県の佐藤剛氏、笠間焼の「笠間色 和菓子皿」が選ばれました。この作品も日常雑器の笠間焼によく用いられる釉薬の組皿であります。各家庭に来客者が減少する昨今は銘々皿の出番が厳しいなか、このデザインは、一家団欒の場に登場すれば器を介した会話が弾みそうである。

＜経済産業省製造産業局長賞＞には、福井県の増谷浩司氏、越前打刃物の「S K 0 6 YOSEGI」のナイフですが、通常は刃物の出品は刃の部分を見せるために刃文に凝った工夫をした作例が多い中で握りの部分を美しい寄木で見せたオシャレな作品である。

＜中小企業庁長官賞＞には東京都の青山弥生氏、江戸切子の「結晶」が選ばれました。他の切子ガラス作品と比較してみると、そのなかにあって受賞作は其々器形の外側に赤青緑の色ガラスを着せたクリスタルガラスを基本のカット技術を施した今を表した美しい出来映えである。

＜日本商工会議所会頭賞＞には香川県の佐々木敏晴氏、香川漆器の「ホーロク型 四種」が選ばれました。ホーロクとは焙烙のことで素焼きの平たい土鍋で火にかけて正月用の「田作り」や大豆を炒ったりする道具の形を引用した大中小4種の黒漆を塗った組皿である。コンパクトに収納でき、必要に応じて器を選択できるデザインも優れています。

＜全国商工会連合会会長賞＞は石川県の宮本雅夫氏、九谷焼の「九谷色絵真麗線文組鉢」が選ばれました。器の中心から放射状の線文を引き、その上に伝統的な九谷焼の釉薬を施した繊細で美しい作品である。

＜全国中小企業団体中央会会長賞＞は長野県の西野孝章氏、木曽漆器の「彩鉢」であります。産地の漆器技術は沈金師や蒔絵師は少数で塗師が多く木曽堆朱塗と春慶塗が国の指定品ですが、多彩な塗技法も盛んで今回の受賞作もその一例である。併せてバイヤー部門の委員の投票で＜バイヤー賞＞も受賞しました。

＜一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞＞は北海道の貝澤雪子氏の二風谷アットウシの「u p a s (ウパシ) ～雪～」は自然と共生したアイヌ民族の自然観とともにザックリとした風合いに織り上げた素材感が美しい。

＜日本伝統工芸士会会長賞＞は山梨県の山本裕輔氏、甲州印伝の「URUSHI NASHI KA (ウルシナシカ) Wa l l e t & 名刺入れ」は、白色の鹿革の上に白漆を用いた印伝技法で文様を置いた、財布と名刺入れである。漆の白はベージュ色になるので洒落た配色が良く映える。

＜若手奨励賞＞には岡山県の安藤騎虎氏、備前焼の「一人用コーヒードリッパー「n a g o m」」はネルドリップでコーヒを1人で入れて楽しむための器である。飲み終わった後の始末もよく考えられている作品である。

＜バイヤー賞＞は新潟県の吉澤武彦氏、十日町明石ちぢみの「変わり七宝つなぎ」がバイヤー部門の委員により選考されました。強燃の絹糸を使用した独特のシャリ感を作り出した軽く涼感のある夏物の着尺である。高温多湿な日本の夏を美しく乗り切りたいものです。

50年以上前になりますが、私がまだ工芸を学ぶ学生だった頃「美術とは何か」「デザインとは何か」「工芸とは何か」何処に境界があるのか、など良く話し合ったものでした。いま現在、かつてあったような伝統工芸の地場産業に勢いがありません。何故でしょうか。様々な原因が考えられます。一つには伝統工芸も、美術の流行や傾向と無縁ではないと思います。日本国内では一年中、各地の博物館、美術館、画廊、デパートなど美術や工芸の展示が企画されています。すべてを見て回ることは不可能と言えます。しかし、有楽町の東京国際フォーラムで開催される「アートフェア東京」に行きますと国内外のとにかく沢山の美術バイヤーが店を出し、古美術、工芸、日本画、近代美術、現代アートまで幅広い時代とジャンルの作品に触れることで今の時代の流行や傾向を知る場になり、いい勉強ができると思います。

今回の出品作家（職人）たちは、素材を見分ける眼力を持ち、身体を鍛錬して身につけた技も保持している方々です、それらに加えて時代感覚を身に付けることから、より良い作品を制作する仕事人になると思います。

業種	応募作品				応募者			
	指定	非指定	産地計	出品数	男性	女性	企業/団体	計
織物	9	7	16	28	5	17	2	24
染色品	5	2	7	14	4	3	2	9
その他 繊維製品	1	3	4	4	2	1	1	4
陶磁器	11	3	14	24	17	5	1	23
漆器	12	1	13	30	26	3	1	30
木工品	6	3	9	13	10	1	1	12
竹工品	1	0	1	1	0	1	0	1
金工品	4	1	5	14	6	2	1	9
仏壇・仏具	1	1	2	3	1	0	2	3
和紙	1	1	2	2	1	0	1	2
文具	2	1	3	3	3	0	0	3
貴石細工	1	0	1	1	1	0	0	1
人形・こけし	1	1	2	2	1	0	1	2
諸工芸品	5	9	14	24	16	5	0	21
材料・用具	1	0	1	1	1	0	0	1
合計	61	33	94	164	94	38	13	145
指定＝経済産業大臣指定伝統的工芸品、非指定＝経済産業大臣指定を受けていない工芸品								

ポスター・チラシ・DM

ポスター・チラシ



D M



公募展作品展

入賞・入選した 89 点の作品展を行いました。

会 期 : 平成 29 年 12 月 22 日 (金) ~ 平成 30 年 1 月 10 日 (水) 会 場 : 伝統工芸青山スクエア / 東京都港区



オンラインショップ

受賞作品を対象に「伝統工芸 青山スクエア」のオンラインショップにて「公募展特集」を行いました。

<http://kougeihin.jp/specialsell/>



平成29年度 全国伝統的工芸品公募展 特設販売予約ページ

長い歴史と継がれた確かな制作技術に、現代生活の中で使われるための新しいアイデアや表現を取り入れた工芸品を全国から募集し開催する「全国伝統的工芸品公募展」ですが、本年度の受賞作品が決定いたしました。その中より受賞作品を集め、受注販売いたします。

是非今年の受賞作をお手元にてご愛用ください。

【購入の際の注意点】
本特集の作品は**すべて受注生産**となります。
メールフォームより受注内容をご記入いただき、西暦確認後、メールにてお送りする送金先への入金をもって注文確定となります。
なお、注文確定後のキャンセルはできませんので、ご注意ください。

※本件についてカード決済は受け付けておりません。
※手作りのため、一点一点の間に違いがある場合がございますが、手作り品の魅力としてお楽しみください。

作品名 **黄磁釉 桜型鉢**

受賞 内閣総理大臣賞
工芸品名 九谷焼

商品名	山本窯
制作日数	2ヶ月
単位	6個1箱
製作価格 (税別)	¥104,000
送料 (税別)	小計 ¥10,000円、中計 ¥12,000円、大計 ¥20,000円
材料	九谷陶土
サイズ (単位: 1/8インチ)	鉢: 177 半鉢: 130 小鉢: 63
高さ (単位: 1/8インチ)	鉢: 177 半鉢: 130 小鉢: 63
重量 (単位: 1/8ポンド)	鉢: 609 半鉢: 602 小鉢: 43
付属品	木箱

新聞および雑誌の掲載記事

※1月末までに確認できたもののみ掲載

新聞社

- ・北國新聞社
- ・山梨日日新聞
- ・信濃毎日新聞
- ・北陸中日新聞社
- ・陶業時報
- ・グラスウェアタイムス

WEB 媒体

- ・Mikoshi Storys
- ・Manabi Japan

一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会



〒107-0052 東京都港区赤坂 8-1-22

TEL 03-5785-1001 FAX 03-5785-1002

kikaku@kougei.or.jp <http://kougeihin.jp>